あさせなぐさ　第二編　下

浅瀬乃波第二編下巻

冬歌

初冬時雨　財部實秋

浮雲はさえだめなき世よ立冬を二日ありて降しくれ哉

初冬霜　米澤與十郎

いね刈こきし跡の田をけさみれば敷るごとくに霜ぞおきゐる

山家初冬　湯谷磋一郎

高乃とる影のやまうき雲みえてさわたる鳥の影もさむけさ

暁落葉　高原照彦

あり明の月はひかりもあらねども庭一つのふもちる影ぞふる

夕落葉

夕風にこのそちり初る大そらにそりからをもみそれてそ落

水邊落葉　津田久之

をしろ〻のうつるまてにちる山川のきよき紀行に殺るもみち葉の郵

川落葉　米澤與十郎

末枯の風にみそれてやまのそのもや陰の渡よちるこの葉哉

池落葉　池袋清風

そちすらふもみもうれうる池よ本この葉を社たまりけるか

庭落葉　尾崎宮一郎

松をのり植うる庭も木からしにおそのこの松のつもるうらふ

山家落葉　武石房吉

さをしかの社参も聞えてやま里の寒き月よたちるもみちか

山里の垣もよろこるしらぬ竈も落葉の煙たまりよろこれ

落葉似雨　林陸夫

あさ庭のしあらぬ足迹をよもきをふらし時雨や木のそ成ん

おちふれる　池袋清風

数のこるおもふもこえてやまさとの小春のとのふ葉むけみの女

月前時雨　鈴木左馬次郎

やまのそにかさゝく月をさえきるらかれのこまらよしくれ滞ちり

山時雨

川上のあさ日のほやもくれんぬきてをちうち社染ふそ

山家時雨　三輪長行

もみち葉もいまそ乃こらぬ山里のかきねさひしく降志れうな

かつ一のよ但夕里川よ小まつなあらふ一つれめの神寒けきふ一つれ哉

志つのいく菜積車のおとする一暁志もやおきてふらん

葛飾の邨くのかやそら見わ志世を寒とふるまておける軒端

木枯　池袋清風

さ、原の比良のこまにゆき見えて小寒寒一本からしの声

冬森

夕つ氏こそ色こさわく散みそて冬のれさむ一風の森　池袋清風

折よふれさる一株の楢よむくをのむれある冬よめよろう

志を有一株の楢よむくをのむれある冬よめよろう　磯貝由太郎

寒さ升比寒よぬれて朝日さす軒端こさうくむ雀うな　岡寿美子

きくのもの、ろ切ま、寒見そて冬新寒一左吟の月　足利芳枝子

山里の厩寒の平にのこりくりやつれそろるおきくのたれ

草庵残菊

霜しろきまのいり丸あるつきよかをるもさむし白菊のむ

折ふれる　米澤　興十郎

いまさらをいつこよ移て遊ぶらむ霜にちりぬきくは残りぬ

冬窓　三角　多豆子

残りなく埋もの重ふうろひて雨のまもる窓くなりぬる

初霜　鈴木　左馬次郎

あさくらきあさうしほもそゆらぶいけの汀のあさのちる葉

霜　磯貝　由太郎

没あくるあそけうて春の井のへまろよ葉なたくり

曙霜　井上　通泰

まどひつる月をかくれて夜のおもにまことのいろをみるかな

夕霜　磯貝　由太郎

山ふみのをのこよそちまおみえてのこる夕日のかげのきらけさ

野霜　宮原　直二

さをしかの妻もかれ野のふの萩ちりおくしもふかく成ゆく

橋上霜　中谷　信治

水車さろくおともはまふけておくまあ一かとのゆき橋

社頭霜　中島　茂子

みちをのかものやしろにくれまるのいろきもちろくおきける

さ一夜る初日のかげよ雪とけて垣根のみちハふまれさりけり

三輪 長行

冬夜

年ふるき家もおりおりねさめけりあまりよなよなきのよふれも

川隊 為子

冬旅

孤あ一志も夜のほのかけふみてまくすさらをゆく旅路哉

池袋 清風

氷

あさこのの紀のかけみ一やりあの氷るをもなりにならん

堤 鉦太郎

池氷

ふ度よきつむもみちハみえをのうこそりとちこそ庭のいけあ

をされまこうつやはそのねきて池の氷れあつさをそしる

池袋 清風

冬の日東京すて

三輪 貞子

故郷のこ一路のやいのなこん 硯のあもけさいこそりぬ

木村 忠彦

水仙

いけみつの氷の上よ咲いそ一花のをつこの清くもあるこれ

井上 嘉太郎

冬庭

枯のこる萩のこえをふ風さちて雪のむちる庭の雪みさ

青木 まさ子

冬鳥

いけあのこりをふみてお嘴のなつこみさひき名まこれふ

冬舟

みちなく沖の波風さむき夜のうちこそ

池袋　清風

寒松

こからしのさそひのこせる山まつのみどりあのくもある哉

藤尾　春江子

寒蘆

浪華潟うらのあし原霜枯れてよる波さむくみえ渡るかな

米澤　與十郎

深夜千鳥

ふけぬるこの堤の柳ちもみえてかもの川風よわなくなり

山田　文枝子

暗夜千鳥

夕月を沖よ沈てぬるさまの墨流をてなくちとり哉

津田　久之

佐藤　惟昇

いそ波のまちのまうらふく風に月おちそうきふねよわなく

月前千鳥

水とりのかもの門つら雲さえてかくみく月よちとりあくな

江間　喜代子

まくらかのこの夜波りのつきみよ風さえてよわなくあれ

宮原　景賢

川千鳥

更ぬるかもの河原ふく風さえて枕あらしさむくちとりも

白神　敏子

むらふもなくきみされて老ぬ北山おろしさえわる

福田　みの子

海邊千鳥

小夜ちどり枕よちのく夢を破りぬ人の垣根よ汐やみちらん

池袋　清風

よもをこうかくみふ夜を時の波てふとゆなり

尾崎　万喜子

橋をのまちのうち笑ふよもみをてちとりなくかりそめのあ原

名所千鳥

磯貝　由太郎

舟遊千鳥

つる毛の苔の上ろく月てりてをちの夢ぢをう郎

川本　辰子

池水鳥

ねぶるものちりてうつくる池みな鴨のちる羽をみをそあよける

三角　多豆子

さゝのそのさゝやまのいけの風さむをおをしかもそなく明る

伊毋　義衛

風前水鳥

うら峰より来のたゝふきおろをこゝろに池のおちみされを立

松間寒月

津田　久之

こからーのあさえてる山のまふ月そのこれる

星野　ゆう子

松上寒月

松の世のおさゝえてうら砂の尾のよゝらむあり明の月

池袋　清風

深山寒月

なゝさまも風のあゝむ大比えの横川ゝさゆるあのよよつき

鈴木　左馬次郎

狼のおりもれきこき更やまの松のはの

海邊寒月

福田　みの子

ふゆこれのうらのあしまをおみそてさえこをつるれみの月

池袋　清風

海上寒月

藤尾　春江子

村ふとりなくおりさむき波の上よかくみて月の影のさやけさ

あるこ一のみ阿蘇よそ

佐藤　惟昇

こゝろあるものゝよをそくりけるかな

甲信両國の界なる白峯を望て

三村　日脩

白峰よきつ雪をふりて甲斐こまと信濃のさとしあらそれはけり

遠山初雪

鈴木　左馬次郎

みやこゆそいつのはるとらんさ波の比良の高根のけさのまつを

師走そう近江より都さかう道そ

三角　多豆子

うちむらひらの高根よゆきみそそまつ風さ一栗は秋の系

都初雪

池袋　清風

大路行ゝやおなをあれきね岩ふうこをかれけさのまつゆき

庭初雪

藤尾　春江子

おされ子よよしおこされてみろるかけさめつらしき庭のしら雪

山雪

三輪　長行

ふもなく山路あようろうけさゆの日かゝやく峯のあゆ紀

都雪

あしひきの遠山なみの雪の都大路よつもるけさう郷

松本　亦太郎

庭雪

降雪よとなりも行のうちなしきあとをもそゆるけさうれ

下村　房子

竹林雪

ひとりやとのたけのそやしにふるゆきのこゑうきおそれ

鈴木　左馬次郎

社頭雪

燈火のうみ小夜ふけてちつのまも雪こそつもれ神のひろまへ

宇佐美　祐次

雪中鳥

ちる雪のふりつもりたる枝うちのあのおそよさるくむちをあうな

津田　久之

埋火

うもれをも火柄よりそいろにくろすみもなりふけるか

木村　忠彦

寒夜網代

ほうらさらん後の世いうふあーろこそうこのよのせめをわらーぬなり

財部　實秋

早梅

おくおおのとうるちつくよぬれ当のうち散るふにおよ梅のさつはふ

池袋　清風

歳暮

世の中よおくれのちある吾宿も年のをそうかからけり

堤　鉦太郎

閑窓歳暮

あらたの年の降りもおいらくの文るまふおちつあかりくり

三村　日脩

閑居歳暮

古郷のよものなごりおもひやるつゐのくれさへ一つけふのみ

磯貝由太郎

戀歌

戀

淨るのたよふ雲の三日月のかけさやかにみ一人を慕一き

磯貝由太郎

初戀

いつのまに人の戀しく成ぬらん心もあやしまれて

大西祝

不逢戀

あてそ絶る中をかなしきおもひ世よ生行のこや契りなるらん

宮原景賢

初言戀

いへもそのこゝろ共なとも志らこをおもさり一こゝろやし一き

財部實秋

早顯戀

尾崎吉従

思貴人

あまのけるそでの雫井よかふ方の雫井よかふそのおもひ公

米澤 興十郎

寄鶯戀

春ごとにてなく音もあるものをいつまでさのみ名をもらん

宮原 景賢

寄蝶戀

おもてくいふ小袖をかりておもふこの花摘神よむつれてこそ

財部 實秋

寄弓戀

かくもろともひけとあらせと梓弓つらきこころいかゆひふせす

磯貝 由太郎

戀の歌の中に

佐藤 惟昇

絶夜ふれば物をおもはせていねられぬ夜のさまをいふ

ふしておもひ起てこふまでと公事のよそなる人おもひやれ

三輪 長行

折ふれて

ひとのまいものふまきれてぬそむのようのこおもふ君の上とな

雜歌

寄巖祝

尾崎吉從

中谷信治

池袋清風

中谷信治

あるとし社春のとしめ大西明ゐ下鴨小學校の
試驗ゐ優等の生徒へ褒品とてあたふへき
歌こひされを
さゝけてかをうそめそうおけつゝ行文のなかの梅のたつむ
明治廿二年の春國民新聞の發行を祝ひて
磯貝 由太郎
咲そめし文のはやしの花のまゐやまと魂よみちやとこらん
池袋 清風
たみ草のおもさくへき時をえそ風けしふみのたのもきこな
奉教記念會ゐ
池袋 清風

れくも神のミ園のえひこうちさゝのゆるときにあひまつる
夏の比江尻驛妙傳寺よやとりける時寺主
三村日修
某の歌こひけまを
蓮葉よむをへる露のまろむいろ男のこゝろもかくあれかし
或人身の為なるへき歌をとこひされを
たらちねの歌のをしへをかゝみなそ家のさかえもうしなふへし
宇佐美 祐次
旅行
かりそめよおもひもうみ旅ころもあつくまてに日のすへよかり
前島 むつ子
暁旅行
木のもりるあり明の月を友としてさひしくとゆるきその山みち

旅よりのかへる時舩中にて　池儀清風

かきりなき大海原にうかぶ身のふるさとをいつこならん

舟行夜已深　藤尾春江子

ふるさとまでも祈さめて見まそ名もしらぬ小鳥の夜半の声

ある年の夏箱根よりのかへるとき　湯浅吉郎

朝附日あひそめるふもとの村そうもむらき紀なみそそこふ

旅よりかへるころ　竹内梅子

ちとせのまつ杉のあらしも身にしみて窓近き夕くれの空

明治十八年の秋米國よりの学ひなかへる時

舩中にてよめるうた　湯浅吉郎

ふもとの村のなみまでみそたちうつる夜舩よりあらし吹ぬる

大空をこき行舩よりあらし吹ぬる月日のあるにあく人もなし

永中にそさまくの人のうもれて軍談をかたるを聞て

舩をひもときつゝをれてうきよなりけるを

明治十九年の夏箱根よりもの帰る道にて　三輪長行

こよろきのいそもとゆきうよるなみのおもきこえそする

谷のけのもきの林よりもきのたちかさなりてみえそそこる

ともし火のうみけるを見ゆれはこの山のふもとも人やをもむらん

同年の夏あめりかより物學ひふまうける村

船中よてよめるうた

なつのくもあまたまさりてあらの秋をうしをやおもひますらん

あさなく日さしもさうさうなみの上よむきこふるの秋をしられぬ

人をみないね静まりてよる波おとのみさやけくもあるかな

つきをうよんでまし〳〵ものをあやまちてやみのこころも秋にてなり

大西のそらもあさきをはもちのみとりもゆくみえてるうな

武士の矢ふきの里の木かくれに骨をつらぬくこころをまもれ

戊辰の役奥州よて

財部實秋

うきことのつもるみそうまの旅さきにこおやのおもひくこそしれ

旅よありくるころ

磯貝由太郎

古今の歌のよそひのなをそれて学のみちをこふみをうつらふ

佐藤惟昇

たらちねのおやのみもとに文やらんうき事のこを学ふこそけれ

旅の歌の中よ

牧野信

旅すてこころをきをおくるなりけり

あるとしの冬京都よて

足利芳枝子

やまの端の雪をなかめておもふこれ越後よりまた兄の雪さ哉

米國よありける頃

下村孝太郎

めづらしき花さく國より来ぬひきいさゝなりけり

ありかまて春の頃　三輪長行

ひのもとの花のさかりにつゝもかなと思ふこゝろを

米國にてきくの咲けるを見て　湯淺吉郎

ふるさとのかき根の菊の咲日毎もとのこゝちこそすれ

米國より母のもとに文つかはしけるを

下村孝太郎

たらちねの母よつゝがなひより外なねのひなき身なりけり

米國をある海過よものして　湯淺吉郎

あふみなみのうくまもあらなくにあをうなばらをゆくよしもがな

あめりかまて

三輪長行

外國の文化をやしのあさぼらけうまこふをのりに咲みされつゝ

とにかくにひまもとりてえひのつらみふるまてぬる哉

あしひきの山下あいあさくともをあることろをくむへしけり

亜米利加にあるけるそのころ

こゝ國のことなるさまのてふりもなれをられて筆をとる

明治廿五年の夏あめりかに物学ひよまかり

津田久之

ける時

異國のことなる旅の市よ来てたゝ扇をうれを姫しも

ありかのロスモントまて兄君にあひて故郷の

ここもかこらひろる夜

ふるさとの野山のさまをかるるよそあめつちの名さへなつかしき

あめつちかよて父の友なるヒラデルビヤのライマン氏

ワシントンのランメン氏なとなあひ一時

たちちねをつるなきやと外國の人のをりくさまのうれさ

とつくよの人なとそれてなつかしきをかるるよそ

米國まて始てさーをむつくて

ふるさとのとーのたーめれあつものくなちそひをさくおもふけさ

外國よものまれひよつのたーけ子のかへるを

きちちて

下村房子

けふとそれあそとなかーの浦なみのさまくりこんときをそまて

明治廿一年の夏鎌田正夫ぬまかこまて歸り

ける時よみて遣ーる

諸ともにむすー凍ー大磯のはま風いのーまそーかるらん

木村忠彦

あるとーの秋日向國小林郷なる隈元棟貫ぬーの

もとにおくりける文の奥よ

池袋清風

みやこみておもひやるよさひきをひなの山をの私のゆふくれ

ある年の秋のころ福島よまのりける藤尾春江子

のもとんよみて遣ーる

旅なれぬたひのまくらにひくらん忍のさーふ衣うつこそ

きみのまもむ志のみち里そいつのあらん支雄のもみち毛ふらり

あるとしの春京都をいでゝとき　磯貝由太郎

めぐりきていつのまさうむ四園まの車さくしの八重さくらはる

明治廿四年の夏米國より歸りける時船中

まそよめる歌とも　湯淺吉郎

大海の浪をたてすまの帆よのを風を吹せてしのれ

里のふるの烟のまよ珠りくうくうる大海原のなりあけのつき

富士の根も今はそぬへき何とゆく雲もうくくる道まて　畠山一郎

故郷よかくうくうる

いでこのすゑ東もおそくおほゆるをあらちのくなれをうりけを

久しく旅よありてかへりくるとき　村山令三

待つひしこゝろもいろよあらたまれて門まて母のむこへくるこれ

くさまくら旅のつかれもおもほえす故郷よかへりけるうれ

ふるさとよ帰るたひくかなしきを秋のよそひのつるるうくを　磯貝由太郎

たらちねの親をなくなと故郷よかへりくるとき　竹内竹子

おめりかより故郷よかへりくるとき　湯淺吉郎

おろよかうてきけそ雪よあらしとの多くもあるれ

ふるさとにこうそのちも外国の友をこうそ夢よ見えくる

おもく煩ひ居る姉のもとをたづねまて長崎の港より
船出しける夜

三輪　源造

もさ起のみあとなみのうつろふも
　ある人のみまもりけるとき

佐々倉　代七郎

なけくをと人まもりくをおのくにかろくこころうて歌をみさゝれ
　なる人の身まかり給ふ時柩を送りて

あきんをおくる野みちは日さへくれて陸のうら風そふくも
　明治二十二年の秋母の病の為め京都なる同志
社の女學校を出て故郷にかへりける時學の友
なる児玉千代子の七條停車場まて送り来て

今よりを君の上のみ神ならんとおもひつゝ
別を綱みるこの同二十三年一月二日身ま
こうぬときてかなしさの餘り　竹内　竹子
そのうらあふいのまもりをかりれ別となりにけるこれ
　児玉千代子う十九歳まて身まかりしをかなし
みて

池袋　清風

うせつけをにうれおもちるものを君をふ代もおひるかふ
　児玉千代子の柩をおくりし時

死出の山さうひまてこゝよりはきを君ひとりのこ
　明治二十三年一月廿七日新島先生の柩を送りて

時雨よあひらぐれを
さゝめなき 笹をふりそゝぐ 柩のよるふるれ

津田久之

ある人の墓よりて

苗さしゝ夕日をきえておくつきのまなふ露そおきふる

井上通泰

妻の一七日よ墓に詣て

をりふあひてうちやまーきを女郎花かざしてもゐるまをりけり

新島八重子

夫の身まうる年の春

ひとり袂のねさめ床そまもるのおきくさしひうるる

下村房子

子の身まうるらの春

おーなくて花のさかりよなりぬきとまもるき氷こゝろか

明治二十年十月をさ紀子をさ紀たて

佐藤惟昇

おもうけそゆめようつにみをもうろみもろ子をうち咲くん

三とを四とせ過れとも猶かなーうりけき

さうものを日にうとき つれと年へても狂かなーうりけき

磯貝由太郎

人のうへをおもひやりて

袖のうへに涙おとして月のかげの上はうきをかうり人そうれき

いをされうるを身まうり母のことを

鈴木左馬次郎

人のいひ聞せをれを

たらちねの母のこゝろやさーらぬ月のこのかなーさを後よかうん

ふるさとのあまたの年も身の上もうきをかこちん友もうけり

友もいまもとそろくなりにたりよ年をのこへて

おもひきや人のうらなのうらおもてかぞうのはる物ならんとは

世の中をおもふそおきてもなふそのようなのみぞゆく

東京にて風いろ〳〵吹ける日市街をゆく〳〵

ふくかぜもたよふちりの世のなかいめをとちてこそゆく〳〵うけき

月夜なりふとありて

深雪をそうひとせのいのれきをうきくもをさをひきねらん

佐藤惟昇

思ふとありて

かきりなくうき折きをおもふころひのありけん身をも思さりけり

池袋清風

老後述懐

ふるひえとりかくされぬ年月をあるふるまひて身を老ぬる時我身のうきことをおもふ

ある處よ祈に行ける時我身のうきことをおもふ

なけきて

かくもろうきこ才のいのそうもれんそのことそろ我ふるよりも

竹内竹子

寄巖述懐

あら波もくだけてかくる岩うのものかこころをなともこの邪

精心一到何事不成といふ心を

大西祝

一きちにおもしろき名のやさしきを死まえかくしと見ゆるものなるうけを

米國よ物學ひよ遣ーける我子のうくを朝夕神よ

下村 房子

祈て

ゐまりよもふ祈きことのあけされを神のみまへにもちのきられ

三村 日脩

祈世

そことそ神のみまへにあらきらん立ありよも程近世いのちまし

尾崎 吉從

觀念

仰佛をこころよあるをるくと遠きはろひを行彩よらん

香川景樹翁の五十年回よ花間鶯といふことを

市村 高彦

宮さ紀のもりよきてなく夢ハむうーをかるることちてそもれ

中谷 信治

あさ白ちををつへの花の木れてうちよもまよにおうくひをの琴

或人の年回よ寄時鳥懐舊

伊丹 義衛

ほとゝきす昔をかるこゝちして君志のもりこゝみうれのころ

池袋 清風

新島先生の一周回よ

うきと紀もうれき時も世よまきねゑのうへこそたゝされよ(ま)

井上 通泰

夢

おつけふ世よなき人をみるうれ夢そよみちよほうよふらん

水口 鹿太郎

世よまさらぬあさちねのつみをさて夢も袖をぬらすつるな

寄夢述懐　財部實秋

おなつそのことみ[illegible]なりあふ世をそれうけふる

折ふしふれる　磯貝由太郎

乳房のこゝろくしみそ子のよむまてなりにくるの糸

泰西の文學を

つけまをわまいるまに外國の久のそやしれるもろれ

松本いさ子

とつくふのことそのをもさろうまそ學ひのそのそきそひまゝを

シエーキスヒヤー氏の英詩集をよみて

とろ國の久のそやしまおりてをもそねもとのさろうをそろー

國會　三輪長行

國民のふころおもひも大君よ空えおくへきときそ来よけを

野眺望　米澤與十郎

なひ人のかけさひくもろゆるの乳夕日かけろの空のおそみち

海邊眺望　佐々倉代七郎

あうねさひ夕日かけろふろろみの沖のうたもあろうえゆ

磯貝由太郎

流ろけの遥の苔やのゆふ当あろなるもろおろふ日をそれよけろ

中谷信治

暁

よゐ今の吹つらん大そらは星のひろのうすくなりけり

浦夕

海士かるあま火のけふり招引てうらさひしくもみゆるゆふ

海邊夕

かもろもろ船のともし火みえ初てタなれさひしむらの浦風

港夕

みなとのうちに船のともし火数そひて神戸のみなと日ハくれなゐ

海夕

はたゆふなれつるうれしのおきんきらめくほのさやけさ

遠寺鐘

つくくとなのむる月のかけ更て遠山てらのよひくなり

木村忠彦

山寺晩鐘

夕つゝら吹そかしう山をものまもれるやしよ鐘もくるゝ

垣田廉吉

山雲

からすなく松はやらこのやゝれたかるをのおりみき

津田久之

暮山雲

こゝろなきものとも見えをタされもかれら法師よ浮雲

財部實秋

さしくも野沼の水よりけり夕日かけろふみのあくを

池袋清風

海上暮雲

夕されをかろうさして陽なりまろ氏沖よかろ志ろ雲

古川　穂主

水郷煙

一まちの川添しろきあ上よあさけのきふり立ろろ見ゆ

磯貝由太郎

島夕煙

あうまさた夕日のひろきえのろはるれ小高よ煙たなり川

堤　鉦太郎

漁火

ひさろのほしの光よつきけり大海そられいさり火のうみ

木村忠彦

名所川

神代よりなれつきせぬ多川のきよ紀を人のむよろの郎

山田文枝子

折よふれる

利根川よちろきぬらし行方の杜ふろよ帆みそう

井上通泰

水石契久

よろはよの契むきひて岩のよかりそあけむ流のーら糸

池袋清風

あろらーの夏東山の若王子よものーて

白神　とー子

たきつせもねふく風もねそたてて憂世のかのれろこそすれ

牧野　信

山家

犬のなくおりまちふくもきろこゆなろうこの山のけふ人やをむらん

池袋清風

ふきおろす峯のあらしに山まもれ古巣つたふ栗の尾ろ

磯貝　由太郎

まきをおふやまの一つ家とそんいつ苔の木ぶかみにし

江間　喜代子

うちつゞく遠やまおとのうら寒み火のかけさびくもみぢするころ

尾崎　宮一郎

幽栖

山風よまきの古葉のつもれるはく人となからんのにを

故郷

おとづれもせぬなりぬかな人のまえのそうけん

ある山中まで松のたゝずまれるを見て

山みちは横たふる大杉を跡のふすのとおもふこのごろ

三村　日脩

陸前國玉造郡湯泉村なる裂石梅をよめる

井上　通泰

いそをうみて梅も生ふるを神のふことかとのみ何ちはきそん

晴天鶴

池袋　清風

それまでのあゝまをなれて朝つゆのおくるそらに鳴をなく鶴

水邊鳥

井上　通泰

あらそひてこゆる浅瀬の石の上ふ春て尾をふる鹿たきゝ哉

岩上亀

されよりもろし巌よくらを免をすることもかそらさろろ

藻中魚　木村忠彦

神垣のこいけのあのはろれを免藻の中は魚もみえけり

釣

むろしまやまろてつらん淀まのうくひ魚のつくふかりけり

新田義貞

志ちあらんこのまつくらのなもまちに汐干まけちし稲むらの崎

上杉謙信

うのはれもほのけひろの松よりうく立のもりけり

池袋清風

舜

人の子の道をつくてまつひよ民の税ともなりまけるこれ

おほ磯のはとくるけしあむいやそも神のひろまちん

寺阪真雄

誠もてきみのをえの礎をかまし動のまし氏よ八氏よ

湖水こ舟のうのくるかな　磯貝由太郎

志ち波のしつまりはそしろうみまろうる帆ろけそ志保かろ

財部實秋

君の代をまつのよしきめ人第代まろこぬ当もひらけつるこれ

磯貝由太郎

あしひきの山のふもとにわきいづるかな

煎茶

さやかなる筒井のあをを汲あけて

三輪長行

案山子廼舎の諸社中

明治十二年より同廿六年末まで

此内に細書したる姓名は斯第二編には加入せさりし人々と知るべし

鹿兒島女社中

十六名の内

薩摩鹿島	三原よね子	同	田中米子
同	河原清子	同	有川秀子
同	佐多美都子	同	樺山梅子
同	益満市子	同	上村美津子
同	北原八重子	同	市來米子

同　堀　文子
故
同　石塚　梅子
同　伊集院　市子

京都第一社中　十二名の内

越後與板　三輪長行
備前岡山　大西　祝
日向宮崎　新原俊秀
肥後阿蘇　佐藤惟昇

同　濱田　愛子
同　成田　瑛子

上野安中　湯淺吉郎
備前岡山　岸本能武太
伊豫今治　重見周吉
甲斐身延山七十五世住職　三村日脩

東京廠布區　津田元親

京都女第一社中　八名の内

陸中盛岡　淵澤能恵子
京都上京區　高松　仙子
和泉岸和田　田代　初子
肥後八代　宇野　某

肥後菊池　加藤　某
近江彦根　中島茂子
和泉岸和田　山岡とゐ子

京都第二社中　二十一名の内

肥後阿蘇　井手義久
筑前福岡　安部磯雄

山城愛宕郡　大西　明

東京麻布區　津田久之

肥後熊本　下村房子

筑前福岡　繩田瑞穗

大阪　矢口信夫

備前岡山　加藤　壽

駿河靜岡　中村錄太郎

上野碓氷郡　上原權太郎

丹波福知山　大橋釰四郎

肥後熊本　志垣要三

備中倉敷　木山巖

大阪　葛岡道香

陸中水澤　齋藤知行

土佐故　依光方成

加賀金澤　高木某

備前岡山　岡本巍

京都女第二社中　十三名の內

攝津三田　竹內多計子

伊豫松山　藤井政美子

伊豫今治　竹友梅代子

近江阪田郡故　眞野　岩子

京都第三社中

上野碓氷郡　磯貝由太郎

和泉岸和田　鈴木左馬次郎

丹波船井郡　川勝爲子

丹後峯山　松田道子

肥前唐津　中島某

神戶下山手　畠山一松

肥後熊本　德富健二

備前岡山　水口鹿太郎
上野前橋　佐々倉代七郎
備前天城　津田美歌子
丹波　赤井直吉
紀伊和歌山　阪田貞之助

神戸女社中

神戸下山手　川本辰子
同　川本崎子

備前岡山　野津虎太郎
故
備後　伊藤愼一郎
肥前島原　松本顯二
備中窪屋郡　小野房太

同　川本夏子

京都第四社中　十一名の内

但馬出石　湯谷磋一郎
肥後八代　植田方直
攝津三田　村山令三
大阪　久保荘三郎
筑後山門郡　加藤延年
伊豫今治　越智豐太郎
肥後葦北郡　白川両季
讃岐那珂郡　和泉勝
日向兒湯郡　黒木光
大阪　木下金太郎

京都第五社中　二十七名の内

備前岡山　伊丹義衛
近江蒲生郡　牧野寅次

豐前中津　笹部熊次郎
備前岡山　河本乙五郎
伊豫宇和島　大塚多丸
近江彦根　石原太馬吉
阿波名西郡　阪東陸藏
大阪　福井大三郎
豐前小倉　白石多喜彌
京都第六社中

大和吉野郡　牧野信
筑後久留米　中山猪之吉
備前岡山　砂塲武
播磨佐用郡　岡田廣甫
伯耆日野郡　足羽富隆
伊豫喜多郡　二宮峰雄
伊豫宇摩郡　山川隆二郎

備前赤阪郡　橋本奇策
肥後　柚原熊次郎
備中川上郡　長尾柳吉
越後與板　柏木義圓
美作東北條郡　寺阪眞雄
羽後雄勝郡　武石房吉
伊勢龜山　山崎直

越後與板　三輪源造
備前赤阪郡　小川鶴治
大阪西區　早野竹藏
石見鹿足郡　大谷音二郎
山城伏見　寺內音次郎
上野北甘樂郡　金田辰馬
京都上京區　足利武千代

東京第一社中　十四名の內

越後與板　三輪てい子
上野西群馬郡　松本亦太郎
武藏西多摩郡　高原　梅子
上野西群馬郡　松本いさ子
橫濱山王山　山口　鶴子
東京小石川區　前島　睦子
京都女第三社中
越後與板　三輪　永子
攝津三田　竹內　梅子
東京四谷區　青木まさ子
武藏西多摩郡　高原　孝子
東京芝區　安藤　種子
豐後臼杵　日高　光子
京都上京區　高松　新子

肥後菊池　加藤　康子
土佐高知　藤尾春江子
京都上京區　福田千代子
備前岡山　白神　敏子
筑前福岡　中山さく子
駿河藤枝　岡　壽美子
東京第二社中　十一名の內
東京麻布區　江間喜代子
美作津山　中村とし子
越前武生　藤岡　廣子
長門船城　山田　篤子
京都下京區　永井　鶴子
京都　長野　久子
尾張愛知郡　尾崎宮一郎

武藏入間郡　市村高彦

武藏西多摩郡　高原照彦

下野宇都宮　神谷久和子

甲斐西八代郡　村松鍬三

尾張名古屋　名古屋社中　五名の內

兼松龜吉郎　同　吉田須和子

同　長尾德太郎　同　京都第七社中　十二名の內

東京日本橋區　星野ゆう子

肥前藤島郡　原峯子

橫濱野毛町　原登美子

大阪北區　北里蘭

播磨姬路　橋南浩治

備前邑久郡　納三治

播磨佐用郡　上谷續

伊豫松山　井上嘉太郎

淡路三原郡　平瀨龍吉

土佐高知　井澤克已

越路社中

陸中膽澤郡　高橋由已

肥後八代　渡瀨昌雄

備前磐梨郡　萬代嘉平治

美作勝山　山田孫四郎

豐後大分　島益吉

越後北蒲原郡　高橋鷹藏

數名ありしも暫時にして止む

京都女第四社中

京都上京區　福田みか子
加賀大聖寺　吉野まさ子
因幡鳥取　本部豐子
京都上京區　足利芳枝子
三河豐橋　富田まき子

京都愛親會女社中　十二名の內

京都上京區　柴田靜榮子
加賀大聖寺　吉野順子
肥前長崎　中尾うてな子
丹後加佐郡　林勝雄子

丹波金蘭倶樂部

丹波船井郡　人見戀月
豐後東國東郡　加藤眉亭
丹波多紀　近成丹水
近江八幡　望月なを子
京都下京區　佐藤道子
京都　矢島千代子
日向高鍋　森かつ子

京都下京區　靜間秀子
京都上京區　山田君子
京都上京區　林うめ子

同　中川雅生
丹波船井郡　川勝鶴陵
丹波船井郡　田井龜仙

丹波船井郡　山本文友　同
同　島津岫雲　同
丹波南桑田郡　栗山漣山　丹波多
丹波多　森田竹雨　同
丹波篠山　安藤直紀　京都下京區

與謝廼歌垣

丹後宮津　垣田廉吉　同
同　牧正能　同

人見松園
中川樂友
萩田如水
山鳥香雨
加藤千世子
今林直吉
八木萬吉

同　安達復藏　同
同　清水清造　同

京都女第五社中

近江長濱　藤井榮子　土佐高岡郡　濱田戊子
遠江豊田郡　齋藤澤野子　日向高鍋　阪田郁子
京都上京區　小谷桑子

兵庫社中

神戸兵庫　尾上米太郎　同　井上甃吉

武部豐藏
内藤惠藏

大阪女社中

大阪西區　今村　幸子　大阪東區　大畠　榮子

横濱社中

但馬出石　河野左源治　武藏久良岐郡　乘竹ろく子

奈良社中

大和奈良　田村正義　大和郡山　山下龜太郎

大和郡山　中山鶴齋　大和宇智郡　磯田かつ子

大和宇智郡　磯田ゑつ子　大和山邊郡　澤井やすゐ

京都吉田社中

備前岡山　雀部顯宜　備前津高郡　阪野鐵次郎

西多摩社中　四名の內

武藏西多摩郡　武田義勝　同　田中重郎

個別社員

結社したるにあらず各個別々に學ぶ新舊の門人を茲に列誌す

京都上京區　新島是水　美濃安八郡　北村ぬい子

故　肥後阿蘇　藏原惟康　東京荏原郡　石光守家子

伊豫今治　中谷信治　東京赤阪區　德富久子

尾張東春日井郡　道木杢次郎
伊勢三重郡　宇佐美祐之
信濃小縣郡　米澤與十郎
備前岡山　堤　鉦太郎
武藏熊谷　大八木ゆき子
京都上京區　山田文枝子
備中高梁　赤木蘇平
丹波何鹿郡　西山仝太郎
近江日野　十字六四文
伊勢三重郡　宇佐美祐次
京都上京區　新島八重子
長門美稱郡　藤村　箴
京都上京區　三角多豆子
上野安中　湯淺　初子
但馬養父郡　尾崎濱之助
上野佐位郡　和田久仁子

備中高梁　河合　久子
播磨姫路　神中みさを子
羽後由利郡　齋藤雄之助
肥後山鹿郡　長野　孝子
丹後宮津　吉田彌太郎
周防佐波郡　尾島眞治
山城愛宕郡　奥田最淵
肥後阿蘇　井手睦世子
肥後熊本　福島　幸子
上野前橋　金子尚雄

以上合計二百五十四名

各社中の區別は其社員原籍の如何を問はず結社の地名若くは會名に由て稱す此外尚入社員四十餘名あり而も其就學時日の短かゝりし故茲に其姓名を掲げず又入社志願者にして未就學せざる人々更に百二十餘名あり皆畧す

今治社中

此社中は常に我社の主人に添
刪を乞へるも未入社の約なし

伊豫今治　大森日折
同　阿部通規
同正八位　二俣貴光
同　吉松正宜
同　武本幸雄
同八十四翁　菅香雪
同　松本保明
同　橋本禹績
伊勢山田　幸田光潤

案山子廼舍主人乃近親師友

日向都城　財部實秋
薩摩給黎郡　宮原景賢

尾張名古屋　尾崎吉從
東京下谷區　井上通泰
肥後熊本　下村孝太郎
薩摩給黎郡　宮原直二

案山子廼舍乃社友

年前より既に一家をなしたれば改めて茲に其姓名を表示す故に此集中に撰びたる歌はもとより就學中の詠にはあらざる也

尾張名古屋　林陸夫
東京麹町區　古川穗主
京都上京區　木村忠彦
尾張名古屋　尾崎萬喜子

此社友は我社中出藍の人々にして十

三輪長行
大西祝
湯淺吉郎
佐藤惟昇

故大教正

三村日脩

姓名ノ十二

明治廿七年四月十六日印刷
同　年四月廿三日發行

版權所有

著作者　士族　池袋清風　京都市上京區觀三橋町十九番戸寄留

發行者　士族　巖本善治　東京市麹町區下六番町六番地

印刷者　平民　木下猶之助　京都市下京區北御門町一番戸

發行所　東京市神田區表神保町六番地　女學雜誌社書店

發賣所　京都市上京區烏丸通一條上ル　案山子廼舍社本部

池袋清風大人著述書目

淺瀨の波　初編　全二冊　木版和裝美本　正價金二十錢

同　第二編　全二冊　右同

歌學第一の心得　近版　全一冊

波の下艸　初編　近版　全一冊

全國販賣所

京都市上京區烏丸通一條上ル　案山子廼舍社本部

東京市神田區表神保町六番地　女學雜誌社書店

京都市上京區寺町通二條下ル　河合文港堂

東京市日本橋通一丁目　同　淺草區廣小路　須原屋茂兵衞

京都市三條通高倉東入　同　東洞院通三條上ル　淺倉屋久兵衞

同　寺町通四條上ル　出雲寺文治郎

同　御幸町通三條上ル　村上勘兵衞

同　三條通寺町東入　田中治兵衞

藤井孫兵衞

福井源次郎

京都市川原町通三條上ル　大黑屋書舖
同　荒神口川原町東へ入　鈴木千秋堂
大阪市土佐堀三丁目　福音社
同　心齋橋筋一丁目　松村九兵衞
同　博勞町四丁目心齋橋筋角　青木嵩山堂
同　備後町四丁目　吉岡平助
同　新町通四丁目　矢部晴雲堂
横濱市辨天通　丸善書店
神戸市相生橋東詰　熊谷久榮堂
同　元町五丁目　吉岡平助支店
薩摩國鹿兒島市六日町　吉田書店
肥後國熊本市新町二丁目　長崎次郎

同　八代町　時昌堂
肥前國長崎市酒屋町　安中半三郎
豐後國臼杵疊屋町　甲斐文七
同　大分京町　山川正三郎
豐前國中津町字新博多町　野依僊三
筑前國博多中島町　積善館支店
土佐國高知市種崎町　澤本駒吉
伊豫國松山市港町　土肥與平
阿波國德島市西新町五丁目　黑崎精二
讃岐國高松市大字丸龜町　清野信七
周防國山口大市町　宮川臣吉
安藝國廣島市西橫町　松村善助

安藝國廣島市中島本町　三木文明堂
石見國濱田戎町　安達幾太郎
出雲國松江市天神町　川岡清助
備中國高梁町大字大町　龜山書店
備前國岡山市西大寺町　武內彌三郎
同　上之町　細謹舍
美作國津山町三丁目　萬竹堂
因幡國鳥取市大工町　橫山安次郎
播磨國姬路市西二階町　木村次作
但馬國出石八木町　蘆田歸一
丹後國宮津町字本町　南波庄兵衞
紀伊國和歌山市本町二丁目　平井文助

伊勢國四日市町南町　伊藤善太郎
同　津市大門町　河島文化堂
近江國大津町　小川儀兵衞
美濃國岐阜市常盤町　淺野宗八
尾張國名古屋市玉屋町三丁目　片野東四郎
越前國福井市佐佳枝中町　品川太右衞門
同　武生驛櫻町　足立庄三郎
加賀國金澤市尾張町　雲根堂
遠江國濱松傳馬町　林新聞舖
同　掛川町西町　小杉叢文堂
越中國富山市西町　大橋甚吉
信濃國松本市南深志町　水琴堂爲吉

信濃國長野町大門町　西澤喜太郎
同　小諸町　相場七左衞門
同　諏訪桑原町　白　新　堂
越後國新潟市本町通七番町　櫻井書店
同　長岡市　目黒十郎
駿河國靜岡市江川町　廣瀨市藏
同　呉服町三丁目　三浦定吉
甲斐國甲府市柳町二丁目　柳正堂源太郎
相摸國小田原町絲町　石壽堂
武藏國熊谷町本町　近榮堂
上野國前橋市横山町　是洞なか
下野國宇都宮町大字大工町　內山港三郎

下總國千葉町　立眞會社
常陸國水戸市上市原町　川又銀藏
岩代國若松町大町　田中善平
同　福島町九丁目　漸進堂
陸前國仙台市國分町五丁目　佐勘書店
同　大町四丁目　高藤書店
羽前國山形市十日町　明治閣書房
同　米澤市立町　素月晨平
羽後國秋田市茶町菊の町　土屋善三郎
陸奥國青森町米町　成田泰
渡島國箱舘末廣町　魁文社
石狩國札幌區南一條西二丁目　玉振堂